

高瀬神社 社報

越中一宮



第63号

越中高瀬神社
一宮

令和元年 9月13日

<https://www.takase.or.jp/> 撮影：南部スタジオ

「心と寄せる」

宮司 藤井秀嗣

いよいよ収穫の秋がやってきました。

車を走らせていると稲刈りした田んぼが目立つようになりました。先般、富山市呉羽の梨畑を通りかかったときには直売所が賑わいを見せていました。私の好きな葡萄も出始めています。たくさん美味しい物の中で私の一番は、やはり新米の炊きたて「ごはん」でしょうか。おかずが無くても満足です。食い道楽の方々には楽しみな季節となりました。

私が子供の頃、転作が始まりましたが、近所の田んぼは、殆ど稲作でした。今頃の時季ですと秋祭祝詞にあるとおり、「黄金の穂波打ち寄す」「黄金色の絨毯のようにきれいな田んぼの風景が広がっていました。最近転作があたり前となり、大豆や小麦、玉ねぎなど、かなり大きな面積で栽培されています。富山県は兼業農家が多い県です。普段は会社勤めで土日に農作業という家がほとんどでしたが、最近では会社勤めに専念して、田んぼは農業法人など、人

に任せてしまう農家が多いようです。耕作を請け負った法人は耕作面積が増えて忙しくなりました。丹精込めて耕作しても一軒一軒の農家が細やかに管理していた時と同じようにはなかなかできません。

それを感じるのは黄金色に稔った稲の中に大きな雑草が生えている田んぼを見た時です。もしかしたら無農薬農法なのかもしれません。以前は草取りが行われ、この様な様子をあまり見かけませんでした。今は頻繁に目にするようになりました。私としては、雑草と一緒に刈り取られ、お米に混じるのではないかと、そうなったら「とんみ野米」の品質に影響するのではないかと心配しています。

田んぼについて語る時、祖父がお祭りの後の社頭講話で氏子の皆さんに話していた漢字『思』のことを思い出します。

「『思』という字は、『田』に『心』と書く。田んぼの水は行き届いているか。虫が発生していないか。熱病にかかってないかなど、常に田んぼのことを

心配するから『思』という字なのだ」という話。

雑草の生えた田んぼを見かけるたびにこの話を思い出して、米作りへの『思い』が薄らいでしまったのではないかと心配になります。多分、今も田んぼに心を寄せて耕作されていて、手を入れたい気持ちはあるけれども、先のような事情ゆえ、手が回らないという状況なのだと拝察いたします。

近頃、テレビや新聞で報道される例えば、児童虐待や煽り運転など、信じがたい、心無い事態が次々と起こる世の中となつてしまいました。このことは、様々な原因があつて、一言で言い表すことはできませんが、私たちを取り巻く環境の変化が大きく影響していると思います。その一端として、田んぼへの「思い」が薄らいできているように、人に対する「思い」も薄らいできているからではないかと思えます。

日本人は農耕民族であり、昔から心の奥底に田畑や山林など、自分たちに恵みを与えてくれる自然に対する「思い」がある。感謝の気持ちが無意識のうちには存在していたはずですが、段々と都会化が進み、田舎でも農業が身近でなくなり、消費者が大半を占めるようになった結

果、モノや人に対する「思いやり」が薄らいできたのではないのでしょうか。現在起きている事件や事故は少なからずそのあたりに起因しているのではないかなと思えるのです。

「田」に「心」を寄せるように、他人の「他」にも「心」を寄せる世の中であってほしいものです。

先日、稲刈り後の田んぼに入って作業している農家の人を見かけました。刈った後の田んぼにも心を残す。私には田んぼに「ご苦労さま」と語りかけているように見えました。田の神様はきっと次の年の豊作を約束してくださることでしょう。

今月は奉納剣道大会が開催されます。剣道では打突の後の「残心」が大切であると言われます。打ち終わった後も心を切らず、常に相手に心を残す。気持ちを向け続けること。それは、心が切れるとあらゆることに不安定になってしまうからです。「心」は全ての基本となります。安定した世の中にするためにこれからも「心」を寄せて、つないで行く努力をしなければなりません。

秋の夜長、相応しい「心」の在り方を考えながら時を過ごしたいものです。

祭事暦

高瀬稲荷社例祭

六月三十日午前十時、末社「高瀬稲荷社」の例祭を斎行しました。高瀬稲荷社は、京都伏見稲荷大社より勧請され、商売繁盛の神様として崇敬されています。

当日の祭典は、雨天のため参集殿テラスにて斎行しました。

講員約三十名が参列し、稲荷社に続き御本社にて「商売繁昌祈願祭」を執り行い、日頃のご加護に感謝し、商売繁昌・社運隆昌・職場の安全を祈りました。



夏越の大祓



茅の輪ができるまで

六月三十日午後三時、「夏越の大祓」を斎行しました。大祓は、伊弉諾尊が禊祓されたことを起源としており、現在では、自らの心身の穢、諸々の罪・過ちを祓い清める神事として全国の神社で行われています。当日、拝殿にて神職・巫女・参列者一同「大祓詞」を奏上、各人が罪穢を移した「人形」を「茅舟」に収め茅の輪をくぐり、神社前を流れる大門川に祓い流しました。



※本年も氏子の皆様に、茅の輪、茅舟を奉製頂きました。



人形感謝祭

古くなった人形に感謝し、お別れをする第二十回「人形感謝祭」を七月十四日午前十時より斎行しました。

祭典前には、各人が持ち寄った人形を奉安場に綺麗に飾り、最後の別れを惜しんでいました。祭典には、約八十名が参列し、神職が人形を大麻・切麻にてお祓いしました。



除熱祭



七月二十二日午前十時、農作物が無事に夏を乗り切って生育するよう祈念する「除熱祭」を斎行しました。

祭典後、お祓いした御幣を献穀田（南砺市高瀬）に立て、成育中の稲を祓い清めました。また夕刻には、氏子太鼓連による「熱送り太鼓」が高瀬の地を練り歩きました。



高瀬忠魂碑慰霊祭

八月十六日午後四時、高瀬忠魂碑慰霊祭を三清東ふれあいセンターにて斎行しました。



慰霊祭は、神道式と仏教式により隔年で行われており、本年は、神道式で斎行。ご遺族をはじめ多数の関係者が参列し、御国の為に尊い命を捧げられた当地出征の英霊七十八柱に感謝の玉串を捧げました。



国家隆昌祈願祭

八月四日午前九時、「国家隆昌祈願祭」を斎行。総代・役員参列のもと、わが国の益々の繁栄を祈願しました。祭典後、多年にわたり社務運営に寄与された方々を称える神社世話役表彰が行われ、根尾絃一神社総代会砺波支部長より感謝状と記念品が贈られました。

○神社世話役
表彰者

（神明宮 世話役）
高崎 博氏

（八咫霊神社 世話役）
川原 清氏

（戸隠神社 世話役）
中川 勲氏

（日吉神社 世話役）
辻 繁雄氏

（神明社 世話役）
尾川 和信氏

（大鋸屋神社 世話役）
松本 文一氏



夏詣

本年より七月一日より七日にかけて新しい企画として「夏詣」を開催しました。

この催事は、「夏越の大祓」において罪穢を祓い清めた翌日から参拝し、半年が無事過ぎたことに感謝し、残りの半年の平穏を祈る新しい風習となるよう実施したもので、境内には、七月七日の七夕祭にあわせて、向拝に設置した七夕飾りに加え、夏の風物詩である風鈴の音が静かに響きわたりました。



七夕祭並技芸上達祈願祭

夏詣終了奉告祭



七月七日午後三時、七夕にあわせて織姫様のはた織り・裁縫上手にあやかり、習い事が上達するよう祈願する「七夕祭並技芸所上達祈願祭」が行われました。参拝された方は、願い事が叶うように祈念しながら、七夕飾りに短冊を結んでおられました。

また、夏詣終了奉告祭を執り行い、無事に「夏詣」を終えたことに感謝しました。



第十九回 人形展

第一期一会

七月十三日(土)

十五日(月・祝)

木彫や和紙・陶製の人形を手がける、県内外の作家十八名の創作人形が展示されたほか、草月流富山県支部「秀抱会(梅崎秀鈴会長)」による「いけばな」が会場を彩りました。

人々を魅了する作品を見るため、三日間で四百人以上の方々が来殿されました。

▽監修

梅崎 親美
(秀抱)

▽銘木材提供

嶋田工芸

▽工芸家員提供

南部 進

▽写真提供

荒井 恒雄

笹波 美恵
(高岡市)宮長 由紀
(射水市)川原 るみ
(南砺市)飛騨山静恵
(富山市)安達 陽子
(砺波市)松本 昌子
(魚津市)横堀貴美子
(射水市)南部 祥雲
(高岡市)熊野 幸子
(砺波市)木村 正和
(南砺市)中林 雅代
(富山市)辻 和志
(砺波市)笹川むもん
(南砺市)千代豹
(小矢部市)上野 勝廣
(富山市)中嶋外志男
(南砺市)

草月流富山県支部「秀抱会」会長 梅崎秀鈴

林 加代子
(福井市)床 サユリ
(高岡市)

『大輪あさがお展』開催

毎年、好評を博しております『大輪あさがお展』が八月十日から十二日の三日間にわたり開催され、多くの来場者で賑いました。本年も南砺あさがお会（森田光正会長）主催のもと、会員が丹精を込めて育てた「大輪朝顔」が境内を彩りました。



※大輪朝顔：起源は、江戸時代に遡るといわれる歴史ある朝顔です。二百年近くに亘り、多くの人々に愛され、育てられてきました。花径がとて大きく、明治時代の後期になると栽培が盛んになり、現在でも広く愛される園芸植物です。



『小島功展』開催

『大輪あさがお展』開催と同日の八月十日より十八日まで、参集殿にて『小島功展』現代の浮世絵師と呼ばれた男』を開催しました。

「黄桜酒造」のカップのイラストで知られる小島功氏の生誕九十年記念事業として開催された同展には、県内外より多くの方が訪れました。



「せせらぎの酒」



ジヨブキッズとやま 2019開催

七月三十日より八月二日にかけて「ジヨブキッズとやま2019」（企画・運営「ふるさとを学び楽しむ子育てとやまコンソーシアム」）を開催しました。同事業は、ジヨブキッズ会員となった小学生が県内の気になった職業を体験する行事で、当神社では「神社のおしごと」と題して、四日間で三十名の子供たちが神社でのご奉仕を体験しました。



注連縄奉製



祝詞の奏上



神楽舞 温習

「おしごと」の内容は、男の子は、自身の願いを記した「祝詞」をご神前で奏上し、女の子は、神楽舞の稽古。その後、男女揃って自宅の神棚に掛ける注連縄の奉製を行いました。参加した子供たちは、一生懸命にそれぞれのお勤めを果していました。

英霊のご事績(寺西政雄命)

権禰宜 魚岸一弥記

寺西政雄命は、南砺市高瀬村出身で、大正三年(一九一四)十月二十一日、父 寺西太八郎と母 みよとの間に長男として生まれました。地元高瀬村では、青年団に所属し、精力的に活動していました。

昭和九年(一九三四)の徴兵検査の結果、甲種合格となり、翌年(一九三五)一月二十日歩兵第三十五連隊に入隊。

同月十五日には、高瀬小学校にて村の方々等が主催した退営・入営者の歓送迎会が行われ、十九日に故郷を出発。六月下旬には富山を発ち、配属される満洲へと渡られました。

第九師団満洲守備隊として、満洲国吉林省で、匪賊(集団的に略奪などを行う賊)の討伐といった治安維持の任務に従事。満洲の環境は厳しく、手紙の中では、「非常に交通不便」、「冷下二三十度迄低下」し、「猪野犬等に毎日の様に出合(であ)った」といった

ことが綴られています。その後、遼陽で、初等兵を教育され、間島省、安東省では再び治安維持に従事、北満洲の哈爾濱では、厳しい訓練をうけられました。そして、一通りの任務を終えられた昭和十二年二月、帰郷されています。陣中からの手紙には「帰郷の暁は愛村の為にまた郷土の繁栄の為に微力乍努力致す決意であります」と、凱旋の喜びと郷土愛溢れた内容が記されています。



寺西政雄命(左より2番目)

同年七月、盧溝橋事件を端に日中間で戦端が開かれ、戦火は、上海へと飛び火します。九月には、所属する連隊も同地へ動員されることになります。

そして、十月二十三日、上海の毛宅攻撃中、銃弾により負傷、銃弾が飛び交う中、同部隊の大窪直吉氏により直ぐ止血が試みられましたが、戦況も硬直したため、十分な治療もままなりませんでした。そのような状況を見て、「大窪君、大丈夫だ。俺の事を心配せず、味方を指揮して進んで呉れ」と仰られたのが、寺西政雄命の最後の言葉となりました。

明朝、毛宅を占領後、大窪氏は、最後に別れた場所へ行き、遺留品を兵に託し、近隣の部落の蔭で「故寺西伍長戦死之地」と墓標を立て、葬られました。この最後の様子は、友人でもあった大窪氏により御遺族の寺西家へと伝えられました。

(世帯主 寺西孝志氏)

ご案内

令和元年八月十五日から、当社社木の功霊殿の御朱印を授与しています。ご希望の際は、

社務所へお声がけ下さい。



※功霊殿には、日清・日露戦争から大東亜戦争まで砺波地区から出征された護国の英霊と、地方開拓の功労者、六千四百余柱をお祀りしています。

はがた
歯固め石

当神社では、お食い初めの石「歯固め石」を授与しております。ご希望の方は社務所へお声がけ下さい。

※「歯固めの石」とは

生後百日頃は、赤ちゃんの歯が生えはじめる時期です。お食い初めの行事では、赤ちゃんに石のようになんが歯が生える事を願う「歯固めの儀」を行います。この「歯固めの儀」で使われる石の事を、「歯固め石」と言います。



新年初祈禱のご案内

～一年の計は元旦にあり～

福の神・結びの神様であります大国主命（大国様）をおまつりする高瀬神社では、全ての災厄を祓い退け、心に平安をもたらすご神徳により、ご家族皆様の安泰と繁栄、また諸々の願いが成就するよう祈る「新年初祈禱」を斎行しております。

新しい年が事故・災難や病氣・怪我無く、家族の「絆」がより強く結ばれ、幸せに過せるよう、年頭にあたりご家族お揃いでご祈禱をお受け下さい。

・内容 家内安全（開運招福） 諸縁結び 商売繁昌（事業繁栄） など

・期間 節分の頃までにご参拝ください
午前九時から午後四時三十分まで
（元旦は午前零時から午後六時頃まで）

・受付 ご祈禱入口からお入り下さい

・祈禱料 一祈願五千元より（ご志納願います）

ご祈禱をお受けになり、
一年間清々しくお過ごし下さい。

―まず大国様に初詣―



戌の日（安産祈願）

令和元年

9月10・22日
10月4・16・28日
11月9・21日
12月3・15・27日

令和2年

1月8・20日
2月1・13・25日
3月8・20日

腹帯のお祓いも行いますのでご持参下さい。

七五三詣（数え年）

本年は次の通りです。

- 7歳（女子） 平成25年生
- 5歳（男子） 平成27年生
- 3歳（男女） 平成29年生

※10月1日より11月末日まで、毎日午前9時より午後4時30分まで随時受け付けております。
※祭典・結婚式等の行事と重なる場合がございますので、社務所までお問い合わせ下さい。

令和2年 厄年・身祝一覽

〔厄年〕 数え年

	前 厄		本 厄		後 厄	
男	24歳	平成9年(丑)	25歳	平成8年(子)	26歳	平成7年(亥)
	41歳	昭和55年(申)	42歳	昭和54年(未)	43歳	昭和53年(午)
	*60歳	昭和36年(丑)	*61歳	昭和35年(子)	*62歳	昭和34年(亥)
女	18歳	平成15年(未)	19歳	平成14年(午)	20歳	平成13年(巳)
	32歳	平成元年 昭和64年(巳)	33歳	昭和63年(辰)	34歳	昭和62年(卯)
	*36歳	昭和60年(丑)	*37歳	昭和59年(子)	*38歳	昭和58年(亥)

※数え年とは、満年齢に誕生日前には2歳、誕生日後には1歳を加えた年齢です。
※*…この年を厄とする地域もあります。

〔身祝〕 数え年

	年齢	生まれ年
還暦	61歳	昭和35年(子)
古希	70歳	昭和26年(卯)
喜寿	77歳	昭和19年(申)
傘寿	80歳	昭和16年(巳)
米寿	88歳	昭和8年(酉)
卒寿	90歳	昭和6年(未)
白寿	99歳	大正11年(戌)

※男女ともに祝います。

令和元年「初詣献灯」の御案内

当神社では「初詣献灯」を実施しております。

本行事は、初詣期間中に正参道両側に「提灯」を掲げ、来る新年が更なる輝かしい一年となるよう、尚一層の御神徳を授けて戴くことを願ひ奉納するものです。

一、「初詣献灯」は正月七日まで、境内等参拝者道筋に献灯いたします。

一、「初詣献灯」は、それぞれ正面に希望の芳名（会社・氏名等）を記入いたします。

一、献灯者の家内安全・商売繁盛の祈願祭を奉仕いたします。

一、献灯初穂料は、一基につき 金壱萬円御志納願います。

一、申込締切 十一月三十日までにお申込下さい。

※記載芳名 例（約八文字）

一、会社

南砺市 (株)高瀬
高瀬産業株式会社

二、個人

高瀬 高瀬太郎
高瀬 太郎

奉納

○「参道玉砂利」

富山市八人町

株式会社 岡部

代表取締役会長 稻積 欣治 殿

代表取締役社長 岡部 竜一 殿

○「参道玉砂利舗設」

南砺市坪野

株式会社 藤井組

代表取締役社長 藤井 秀之 殿



○「楽太鼓修繕」

大和 秀夫 殿



○「揮毫」

小林 芙蓉 殿



○「椿」

朝倉 一男 殿

安原 信義 殿



○「醸造酒」

村木 謙一 殿

各種お問い合わせにつきましては、社務所へご連絡下さい。
(〇七六三) 八二一〇九三二

社報バックナンバー

当神社ホームページでご覧頂けます。

【表紙写真】 秋の色



特別な方々と特別な場所で特別な神前結婚式



只今
春・夏の婚礼
ご予約
受付中

越中一宮 高瀬神社の神前結婚式は、ご親族だけではなく、ご友人にもご参列いただき、「伝統」と「新しいかたち」の神前結婚式です。縁結び神様のおはからい（御神縁）によって、新郎新婦とご参列の皆様がひとつに結ばれます。

縁結びの神様のもとで幸せのお手伝いをしてみませんか

やさしいあなたの力を必要としています



土・日・祝日の空いた曜日だけ! 事前にシフトを決めて働きましょう!!
未経験者歓迎! 丁寧に教えます!

仕事内容	結婚式・披露宴でのサービス業をご担当いただきます
勤務時間	土・日・祝日/9:00~18:00の間（披露宴時間による）
勤務地	南砺市高瀬291 高瀬神社内
給与	時給1,000円以上 研修30hは時給900円
待遇	制服貸与 食事手当500円

月単位のシフト制なのであなたの都合に合わせて働けます

高瀬神社 プライダル事業部
Tel (0763) 82-1131 中井 面接随意・先ずはお電話を

あなたの人生に、神社がある。越中一宮高瀬神社

〒932-0252 富山県南砺市高瀬291
ご予約はTEL0763-82-1131

高瀬神社

🔍 検索